

看護専門科目	共通基盤看護学					
看護学科	必修	2単位	演習	平成30年度	前期	2年次
科目名	実践基礎論Ⅲ(フィジカルアセスメント) Adult Health Nursing Practicum (Physical Assessment)					
担当教員	◎塚原節子 三毛美恵子 小川朋子 森本 茜 他4名					
目的	これまでに学んだ看護理論・コミュニケーション技法・看護過程に、看護診断の裏づけとなる中範囲理論・フィジカルアセスメントに関する知識・技能・態度を統合し、患者をヘルスアセスメントする基本臨床能力を身につける。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントを行うための環境を調整することができる。</li> <li>患者およびその関係者と良好な人間関係を確立することができる。</li> <li>情報を収集するにあたり、患者および家族に説明と同意を得ることができる。</li> <li>コミュニケーション技法を用いて、患者および家族から健康／病いの経験についての必要な情報を収集することができる。</li> <li>フィジカルエグザミネーションの技法を用いて、患者から基本的な身体所見を収集することができる。</li> <li>収集した情報を、ゴードンの「機能的健康パターン」で整理・解釈・統合して、看護診断を導き出すことができる。</li> <li>看護診断を根拠として、個別の患者の望まれる姿を看護成果（患者目標）として表現することができる。</li> <li>現状から看護成果を導き出すために、看護介入を立案することができる。</li> </ol>					
他科目との関連	本科目は、看護理論、コミュニケーション技法、看護技術、解剖生理学、薬理学等で学んだことを基盤に、「共通基盤看護学概論Ⅰ」「実践基礎論Ⅲ」と入れ子構造で進行する。さらに、後期の「共通基盤看護学実習Ⅰ」によって、実体験を通して深める構造になっている。					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験				0.6
	レポート	課題レポートの提出				0.2
	その他	出席状況				0.2
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	<p>古谷伸之編集：診察と手技がみえる vol.1, MEDIC MEDIA, 2007.</p> <p>M. ゴードン/上鶴重美訳：アセスメント覚え書き，ゴードン機能的健康パターンと看護診断．医学書院．2010.</p> <p>NANDA-I：看護診断 定義と分類 2015-1017.</p> <p>山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる，医学書院，2005.</p> <p>日野2006. Carolyn Jarvis原著，操華子ほか監訳：コンパクト</p>					
参考資料	原重明編集：フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版（聴診音CD-ROM付），医学書院，					

備考 (受講上注意、 前学習等)	体のしくみと疾病の成り立ちⅠ・Ⅱ・Ⅲ，薬理学、実践基礎論Ⅰ・Ⅱを復習し、各機能障害の病態や治療・看護を理解した上で受講すること。
------------------------	--